

二
明治三十二年

爵

立案明治三十二年九月七日
決裁明治 年 月 日

爵位

爵位

略

明治三十二年九月六日
皇帳記入 月 日 官報

大臣

内事課長

次官

略

退職判事從三位勲三等名村泰藏
特旨叙位ノ件

官 内 省

裏面白紙

10

送外九一八

辛未 明治四年九月六日

決裁 明治 年 月 日

按

退職判事從三位勳三等名村泰藏

特旨ヲ以テ位一級被進

從三位勳三等名村泰藏

敘正三位

右、通奉日宣下相成候條此旨及傳達候

位記並辭令、明日可及回送候也

明治四年九月六日 爵位局長

司法大臣松田正久殿



退職判事從三位重三等名村泰藏
特旨ヲ以テ位一級被進

敘正三位
從三位重三等名村泰藏

右謹テ裁可ヲ仰フ
明治四十年九月六日

内

閣

内閣總理大臣原西園寺公望

明治四十年九月 日

内閣書記官

内閣總理大臣 印

内閣書記官長

貴族院議員退職判事三位勳三等名村泰藏義鳳之泰西ノ學ニ志シ明治五年職ヲ司法部ニ奉シ就中佛國人ホアソナード本邦政府ノ顧問トナルヤ常ニ其講演ニ起草ニ奮テ通譯翻譯ノ任ニ膺リ今人カ起草セル刑法草案ニ對シテハ全カヲ學ケテ審査編纂ニ任事シ其他治

内閣

罪法草案陸海軍刑法審査委員トナリ夙夜匪懈克ク其職ヲ盡シタルモノニシテ要スルニ帝國刑事法ノ立法事業ニ盡瘁シタルノ功績頗ル顯著ナリトス爾後大審院推事長全院部長等ヲ大審院長心得等ヲ勤務シ去ル廿六年九月退職ヲ命セラレタル後廿七年一月貴族院議員ニ勅選セラレ格据勉勵其勞不斂ノ處目下病氣危篤ニ迫リタル趣ニ付テハ同族大臣奏請ノ通詔降特旨ヲ以テ位一級ヲ進ナラレ正三位ニ敘セラレ茲ルニ

貴族院議員退職判事從三位勲三等名村泰藏儀
夙ニ泰西ノ學問ニ志シ文久ヨリ慶應ニ且リ蘭
英獨佛ノ語學ヲ研究シ慶應二年佛國博
覽會ハ出品ニ付附添申付ケラレタリシガ明治
元年歸朝ノ上長崎府ノ上等通便役申付
ラレ且ッ佛學局助教ヲ無ネ明治二年九月佛
學教導助申付ラレ官祿三十三石下賜セラレ
明治五年二月ニ至リ司法省七等出仕仰付ラレ
同年八月司法卿江藤新平歐洲各國ニ差遣
セラレニ付隨行仰付ラレ滯歐中彼地ノ制度
ヲ調査シ明治六年十月歸朝スルニ方リテ佛
人ボアッナードヲ政府ノ法律顧問トシテ歸

司法省

リ爾來ボアッナードノ講演及起草ニハ奮テ通
辨翻譯ノ任ニ膺リ勉メテ泰西法律ノ普及
ニ盡カシ就中ボアッナード起草ノ刑法草案ニ
對シテ全力ヲ舉ケテ之ヲ審查編纂ニ從事シ
其他治罪法草案審查委員陸軍刑法審查
委員海軍刑法審查委員等ヲ命セラレ夙夜
匪勉克ク其審查ヲ完了シタルモノニシテ要スルニ
帝國刑事法ノ立法事業ニ盡瘁シタルノ功勞ハ
頗ル顯著ナリトス爾後十數年間司法部ニ
奉職シ明治十九年五月十日大審院檢事長ニ
任セラレ明治廿一年五月廿九日勲三等旭日中綬
章ヲ賜ハリ明治廿三年十月三十日大審院部長
ニ補セラレ明治廿五年八月廿四日大審院長心

得仰付^{ラレシ}ガ明治廿六年九月退職ヲ命セ
ラ^レ明治廿七年一月廿三日勅撰セラレテ貴族
院議員トナリ現ニ其職ニ在リ今ヤ病氣
危篤ニ陥リ旦夕期スヘカラサルノ時仰願^ハ
別格ノ特旨ヲ以テ位一級被進度謹^テ
奏ス

明治四十年九月五日

司法大臣 松田 正久



司 法 省

裏面白紙

16

司法省

司法省職壹第一六六二號上奏 壹 件
右執奏有之度候也

明治三十一年九月五日

司法大臣 松田 正久



内閣總理大臣 侯爵西園寺公望殿